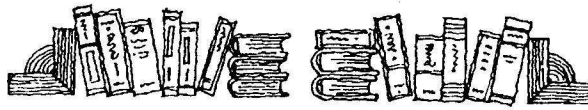


国語国文学会だより



No. 37

2007. 9

日本文学科卒業生の会

国語国文学会 春の総会・研究発表会報告

平成十九年度春の総会・研究発表会を五月三十一日(木)、八十年館八五一教室にて開催しました。

◆第一部 総会

- (1) 国語国文学会会長挨拶 清水康行先生
(2) 奨学金授与

日本女子大学日本文学科賞(奨励賞)

学部四年次 田原悠莉氏
学部四年次 森明日香氏
院博士課程後期二年次 木内英実氏
院博士課程後期二年次 上村悦子奨学金

院博士課程前期二年次 深見美希氏
院博士課程後期三年次 鈴木美穂氏

- (3) 国語国文学会委員長挨拶・役員紹介

(学生の方・卒業生の方)

- (4) 平成十八年度活動・決算報告
(5) 平成十九年度活動計画案・予算案・監査選出
(4)(5)については学生、卒業生より各々報告説明を行い、各案件とも審議後承認
(6) 自主ゼミ発足(学生の会・卒業生の会) 承認

秋季大会・公開講演会のご案内

▼日時 平成十九年十一月二十四日(土)

▼公開講演会

題目未定

あさのあつこ氏

☆講師略歴

あさのあつこ氏

一九五四年岡山県生まれ。青山学院大学文学部卒業。全国児童文学同人誌連絡会「季節風」同人。

同誌に投稿、掲載された「ほたる館物語」が単行本となり、三十七才で作家デビュー。九六年から十年がかりを完成させた「バツテリ」I・IIは野間児童文芸賞、小学館児童文学賞を受賞。今春、映画化もされる。

児童文学のジャンルにとどまらず一般書「透明な旅路と」時代小説「弥勒の月」など多彩な作品を発表。

▼講演

「歌舞伎を通して見る江戸と上方

——初代団十郎から谷崎潤一郎に及ぶ——
本学准教授 児玉竜一先生

▼懇親会

講演会終了後、ワイミンにて(予定)

会費三千円(学生千五百円)

*研究発表会

十一月二十四日

百年館低層棟五階五〇四(予定)

発表者募集

詳細は四面参照

▼報告

活動報告 ○創作ゼミ 学部三年次 貫井美希

○古代中世文化論乃至芸術論ゼミ

「『風姿花伝』を中心に」 関根 緑(旧44)

▼研究発表

「継子物語における時代的要請

——平安時代養育慣習からのアプローチ——

新57 明治大学大学院博士課程前期一年

二〇〇六年度日本文学科賞学術賞

柴崎有里子氏

「三島由紀夫『禁色』からみる南悠一と死の関連性」

新57 本学大学院博士課程前期一年

松永恵理子氏

平成十八年度卒業生の会活動報告

(1) 総務

・回生委員会・常任委員会の招集

・春季総会・研究発表会の開催

(2) 企画

・自主ゼミの活動(平安文学談話会・皇女研究会・

古代中世文化論)

・秋季大会の開催

研究発表大会・総会・講演会・懇親会

・文学散歩 岡本かの子ゆかりの地をめぐる

十月十四日(土)

(3) 会計

・会費納入の確認

・収支・運営・備品の完備など

(4) 編集

・「国語国文学会だより」

春の大会報告号 三十五号(八月)

・はがき通信 四月(春の総会案内)

・はがき通信 十月(秋季大会案内)

(1) 平成十九年度国語国文学会(卒業生の会)活動案

(1) 総務

・春季総会・研究発表会の開催 五月三十一日(木)

担当 児玉久美子(46)・土橋ユリヨ(新31)・藤

木直美(院31)・稲田智恵子(院33)

(2) 企画

・自主ゼミの設立

1 平安文学談話会(古筆を読む)

2 皇女研究会(国史を読む)

3 古代中世文化論(謡曲)

・秋季大会の開催

研究発表大会・総会・講演会・懇親会

日本女子大学国語国文学会・卒業生の会 平成18年度決算報告(平成19.5.31)			
【収入の部】		(円)	
項 目	予 算	決 算	増 減
前年度繰越金	328,981	328,981	
会 費	600,000	493,061	▲106,939
利 子	0	152	
寄 付	0	0	
計	928,981	831,073	▲106,787
【支出の部】			
通信費	370,000	245,250	△124,750
文具費	3,000	84	△2,916
コピー代	5,000	8,310	▲3,310
会報印刷費	100,000	78,300	△21,700
名簿作成費	120,000	0	
委員会活動費	66,000	52,290	△13,710
・委員会費	(15,000)	(8,290)	
・交通費	(36,000)	(34,000)	
・行事費	(15,000)	(10,000)	
ゼミ費	30,000	30,000	
秋季大会費用	100,000	75,044	△24,956
慶弔費	5,000	0	
パソコン関係諸費	60,000	49,028	△10,972
予備費	69,981	15,000	54,981
計	928,981	553,306	
		19年度へ	268,888
上記の通り決算報告致します。			
会計	津田 英子	斉藤 令子	
監査の結果、上記決算報告が正確であることを認めます。			
監査	菅家由紀子	金石 教子	

・文学散歩の実施予定

担当 立川和子(新1)・関根緑(44)・平山静(新34)

(3) 会計

・会費納入への協力依頼

・活動充実のための備品の整備・購入

担当 津田英子(新6)・斎藤令子(新6)

(4) 編集

・「国語国文学会だより」の発行

秋の大会報告号 三十六号(四月)

春の大会報告号/秋の大会案内号(八月)

・はがき通信 十月

担当 倉田智子(新31)・中田和子(院27)・福

原房枝(新28)・黒川晴美(新33)・斎藤

視知(院35)

○『国文目白』第四十六号ができました。ご希望の

方は葉書で左記までお申し込みください。

〒一一二・八六八一 文京区目白台二・八一

日本女子大学日本文学科研究室『国文目白』係

代金は、冊子到着後に払い込んでください。

(送料別 八百円)

国文目白第四十六号

人麻呂歌集巻七・一三〇六「小端見反恋」……八木京子

——「なほこひにけり」の訓読と解釈の背景——

『風立ちぬ』生成……………渡部麻実

——一つの転換点、あるいはアンドレ・ジイドの

日本女子大学国語国文学会
・卒業生の会
平成19年度予算(平成19.5.31)

【収入の部】

項目	予算
前年度繰越金	268,888
会費	550,000
計	818,888

【支出の部】

項目	予算
通信費	260,000
文具費	3,000
コピー代	8,000
会報印刷費	80,000
名簿作成費	150,000
委員会活動費	61,000
・委員会費	(10,000)
・交通費	(36,000)
・行事費	(15,000)
ゼミ費	30,000
秋季大会費用	100,000
・講演料	(60,000)
・諸経費	(40,000)
慶弔費	5,000
パソコン関係諸費	50,000
予備費	71,888
計	818,888

『背徳者』的死生観との決別

紫の上不出家の論理……………林 悠子

平家文化再考……………長岡祐子

番外曲「反魂香」試論……………井上 愛

「双蝶蝶曲輪日記」考……………森田みちる

——歌舞伎との趣向の交流——

尾崎紅葉「風雅娘」論……………土屋萌子

——「虫めづる姫君」翻案の戦略——

『或る女』……………持田陽子

——受け継がれる家庭——

尾崎翠作品に於ける「女の子」の彷徨……………鈴木ちよ

——『第七官界彷徨』『歩行』『地下室アントンの

一夜』を中心に——

岡本かの子『晩春』……………近藤華子

——鈴子の「苦しみ」——

中島敦「古譚」における言語と実存……………森田眞有子

「文字禍」を中心に——

「蜀道難」に見る謫仙人・李白……………塩沢夏布

「てみる」を含む条件の用法について……………江田すみれ

——特に「てみると」を中心に——

〔書評・紹介〕

〔集報〕

研究室だより

○中古文学担当の後藤祥子先生が、平成十八年度末をもつて教授としての定年を迎えられました。引き続き、学長・理事長として、本学全体の舵取りをなさっています。

○本年度より、後藤先生の後任として、星美学園短期大学より、高野晴代先生(新制二十四回生・院十四回生)をお迎えしました。先生は、中古文

学、特に屏風歌を中心とした和歌史研究を主たる研究領域とされています。

○昨年度前期、サバティカルを取られた田中功先生（図書館情報学）は、後期より御帰任になつていきます。

○本年度は、石井倫子先生（中世文学）が、国内研修に出ていらつしやっています。

○他の先生方は昨年と変わりありません。

平館英子先生（上代文学）

児玉竜一先生（近世文学）

倉田宏子先生（近代文学）

源五郎先生（近代文学）

坂本清恵先生（日本語学）

谷中信一先生（中国思想史）

江田すみれ先生（日本語教育学）

田辺和子先生（留学生教育）

清水康行（日本語学）

○専任助手の溝部優実子さんが、昨年度前期末をもって退職されました。溝部先生は、今年度からは非常勤講師を務めていらつしやいます。

○後任の専任助手として、昨年度後期より、それまで非常勤助手を御願ひしていた渡部麻実さんが就任なさいました。

○他の専任助手は、引き続き、白石美鈴さんと八木京子さんが務めていらつしやいます。

○非常勤助手は、昨年度後期より、田代一葉さんに

御願ひしています。

○昨年十月二十七日、日本文学科と萬葉語学文学研究会共催による公開シンポジウム・研究発表会「上代文学研究の道しるべ」が、新泉山館・大会議室を会場に行なわれました。続く十月二十八日・二十九日には、本学を会場として、萬葉学会の全国大会も開催されました。いずれも、全国から多くの研究者の参加があり、萬葉学会での青木生子先生のご講演をはじめ、充実した研究発表と熱心な質疑応答が展開されました。

○毎夏の恒例となつた「国語教員の会」が、七月二十八日（土）に開かれ、午前の部では、本学科出身で中学・高校の国語科教師の諸先生による近況報告と本学への御要望を伺う懇談会、午後の部では、教職志望の在学生も多数参加し、井上光先生（新制十四回生、前日本女子大学附属高等学校副校長）による教育活動報告「国語科教員の仕事」と、それを受けての活発な質疑応答が行なわれました。

○国語国文学会の本年度の担当は、源先生、平館先生、渡部さんです。（清水記）

◆研究発表会 発表者募集

- ・日 時 平成十九年十一月二十四日（土）
- ・発表時間 三十分、質疑応答十分
- ・応募資格 本学国語国文学会の会員であること
- ・応募方法 論題に四百字以内に発表要旨を添えて申し込むこと。
- ・応募先 日本文学科研究室内
「国語国文学会秋季大会研究発表者募集係」宛
- ・締切り 平成十九年九月二十八日（金）
- ・選考方法 国語国文学会において選考を行い、選考結果は後日、個別に通知いたします。

○会計より

振替用紙同封いたしました。
会費十九年度分、千円の納入を十二月末日までに
お願い致します。
今年度分、既に納入の方には同封いたしません
が、ミスがありましたらお許し下さい。

二〇〇七年九月一日

発行・日本女子大学日本文学科
国語国文学会卒業生の会
〒112-8681 東京都文京区目白台二・一八
日本女子大学 日本文学科内